

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業のタイトル (科目名) レポート指導	授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実技)	授業担当者 名地 宙 (実務経験者) 川本 公代 (実務経験者)	
授業の回数 135 回	時間数 (単位数) 270 時間 (9 単位)	配当学年・時期 2 年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士を目指す学生のレポートとしてふさわしい内容に仕上げる。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 提出期限内に提出し、大学の担当者から合格の評価を得る。 ・ 自分なりの考えをもち、それを自分の言葉で表現できる。 ・ 課題に求められた内容を理解してまとめることができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1～135 名地 70 コマ 川本 65 コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各人の計画に従ってレポートを完成させる。 ・ まとめ方等、困っている場合、相談に乗る。 ・ 完成後、以下の観点でレポートを添削指導する。 <p>①決められた書式になっているか</p> <p>②誤字脱字の有無</p> <p>③教科書や参考文献の提示の有無</p> <p>④内容の妥当性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に沿った内容か ・ 自分の言葉で表現できているか ・ 論理的に順序良く構成しているか 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>各レポートに指定あり</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・ 課題提出を課し、評価項目 (主題提示 (40 点) 構成 (30 点) 表現 (15 点) 用字 (15 点) を評価し 6 割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業のタイトル (科目名) 児童家庭福祉論	授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実技)	授業担当者 名地 宙 (実務経験者)	
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 6 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年 通年	<u>必修</u> ・ 選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最近の子どもや家庭を取り巻く環境について理解する ・ 児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭福祉施策の全体像を理解する ・ 多岐に渡る児童に関する法律や制度を把握し理解する ・ 様々な問題に対応する児童相談所や市町村の対応について理解する ・ 社会的養護としての児童福祉施設・里親について理解する <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもや家庭を取り巻く現状や課題 (貧困・ 虐待・ D V 等) について説明できる ・ 我が国や諸外国における児童関連法規、児童福祉施策や権利保障について説明できる ・ 児童相談所の活動内容や役割等について説明できる ・ 児童福祉施設や里親制度について説明できる 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭を取り巻く社会情勢と生活実態について 2 子ども家庭福祉とは 3 子どもと家庭の権利保障 4・5 日本の子ども家庭福祉の歴史 6 欧米の子ども家庭福祉の歴史 7・8・9・10 子ども家庭福祉の法体系 11 改正『児童福祉士法』について (社会福祉士会配信動画視聴) 12・13 子ども家庭福祉の実施体制 14 児童福祉施設の体系について 15 母子保健・医療サービス 16 子育て支援と子どもの健全育成 17 少子化対策の動向 18 子どもの健全育成施策・保育サービスについて 19 子ども・子育て新制度における子ども・子育て支援について 20 ひとり親家庭への福祉サービス 21 ドメスティックバイオレンスの現状 22 子どもの社会的養護 23 児童虐待の現状 24 児童虐待への対応 25 児童虐待・DVに関する動画の視聴 26 障害のある子どもと家庭への福祉サービス 27 情緒・非行問題のある子どもと家庭への福祉サービス 28 非行問題のある子どもの現状と対応 29 スクールソーシャルワーカーについて (社会福祉士会配信動画視聴) 30 子ども家庭福祉における専門職の役割と実際 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『児童・家庭福祉論』 (みらい)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・ 筆記試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業のタイトル (科目名) 社会福祉援助技術論 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実技)	授業担当者 川本公代 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] (</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関わるソーシャルワークを理解する ・ 社会環境への働きかけを理解する ・ 権利擁護とは何か理解する ・ ソーシャルワークの研修を理解する ・ 聴く技術を養う ・ 共感する技術を養う <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関わるソーシャルワークを説明できる ・ 社会環境への働きかけを説明できる ・ 権利擁護とは何か説明できる ・ ソーシャルワークの研修の種類と内容を説明できる ・ 聴く技術の基本を身に着ける ・ 自分を知る ・ 受容や共感的態度を理解する 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域を対象としたソーシャルワーク 2 個人や集団に関わるソーシャルワーク 3 社会環境への働きかけとその他の関連技術 4 ソーシャルワークの展開過程 5 権利擁護が求められる背景 6 権利擁護とは何か 7 権利擁護のソーシャルワーク実践 8 地域における多職種連携 9 ケースカンファレンス・サービス担当者会議 10 関係性に着目するソーシャルワーカー 11 一人前に向けてどのように何を学ぶのか 12 かかわり続けることで培われるソーシャルワーカーの実践力 13 私の支援を振り返る 14 実践とは何か 15 事例検討会を運営する方法 16 援助の専門家に求められる 3 つの能力 コミュニケーションの目的を理解する・バイステックの 7 原則を理解する 17 気持ちを表現する方法<テクニック>言語的・準言語的・非言語的テクニックの理解 18 話しやすい雰囲気を作る 口元と目線の意識する 緊張をほぐす話題を考える 19 自由に話してもらおう (質問の言い換え) オープン・クエスチョンとクローズド・クエ 			

<p>スチョンの使い方・適切な場面を知る（演習） 問題チャレンジ</p> <p>20 聴きたい気持ち表現しよう（ミラーリング・ペーシング）</p> <p>防衛姿勢とオープン・ポジション 傾聴の基本とメッセージの共有</p> <p>21 聴きっぱなしにせずに確認しよう（繰り返し・要約の技法・沈黙）</p> <p>問題チャレンジ（要約）コミュニケーションに適した座り方</p> <p>22 意見や助言はやめよう（聴き手主導の聴き方と相手の話をとってしまう聴き方の違い）</p> <p>23 隠された本音を理解しよう（言語・準言語・非言語）その人の空間を大切にしよう</p> <p>24 心の動きに注目してみよう（先入観・思い込み・ステレオタイプ）コアビリーフ</p> <p>25 相手を基準において理解しよう…ありのままに受け入れよう（受容）</p> <p>同情と受容の違いを知る</p> <p>26 相手の心の支えになろう・感情を把握しよう</p> <p>27 共感を効果的に伝えよう・共に感じたら共に歩き出そう 共感的態度と共感的応答</p> <p>共に歩き出すための一言と励まし</p> <p>28 共感できないときは振り返ろう（自己覚知・他者から見た自分） エゴグラム</p> <p>29 つらくなったら距離を置こう 感情労働 マインドフルネスの体験</p> <p>30 共感から援助につなげよう ディマンドと潜在的ニーズ</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>ソーシャルワークミネルヴァ書房</p> <p>聴く・伝える・共感する技術便利帖</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要

授 業 概 要

(社会福祉科)

科目名 福祉行財政と福祉計画		授業の種類 講義		授業担当者 立花 匡真	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2年・通年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>前期1 福祉行財政と福祉計画の概要を把握する 前期2 国家試験に合格するための基礎学力を身に付ける 後期1 過去問題解答を通じて国家試験合格への応用力を付ける 後期2 大学提出用レポート1単位目を作成する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>前期：担当科目の内容を理解できるよう要点を絞ったプリントを使い解説し、基礎的な内容を把握できるよう確認試験を解答させる 後期：過去問題演習とレポート作成</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>前期：1 過去問題が解けるようになる 2 確認試験で知識を確実に身に付ける 後期：1 過去問題第22回～28回を解く 2 大学提出レポート1単位目を作成する</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数	テーマ		コマ数	テーマ	
1	1. 福祉行財政の実施体制Ⅰ 国の役割 1) 法定受託事務と自治事務		16	問題演習 過去問題 第22回	
2	1. 福祉行財政の実施体制Ⅰ 国の役割 2) その他 1. 福祉行財政の実施主体Ⅱ 都道府県の役割、市町村の役割		17	問題演習 過去問題 第23回	
3	1. 福祉行財政の実施体制Ⅲ 都道府県の役割、市町村の役割(続き)		18	問題演習 過去問題 第24回	
4	1. 福祉行財政の実施体制Ⅴ 福祉の財源その1		19	問題演習 過去問題 第25回	
5	1. 福祉行財政の実施体制Ⅴ 福祉の財源その2		20	問題演習 過去問題 第26回	
6	1. 福祉行財政の実施体制Ⅴ 福祉の財源その3		21	問題演習 模擬問題(2018 中央法規問題集) 第1回	
7	1. 福祉行財政の実施体制Ⅵ 福祉行政の組織及び団体の役割		22	問題演習 模擬問題(2018 中央法規問題集) 第2回	
8	1. 福祉行財政の実施体制Ⅶ 福祉行政における専門職の役割		23	問題演習 過去問題 第27回	
9	1. 福祉行財政の実施体制Ⅴ 福祉の財源その他		24	問題演習 過去問題 第28回	
10	4. 福祉計画の主体と方法Ⅱ 福祉計画の種類(1)		25	大学提出レポート1単位目作成の仕方ポイント説明	
11	4. 福祉計画の主体と方法Ⅱ 福祉計画の種類(2)		26	大学提出レポート1単位目作成 その1	
12	4. 福祉計画の主体と方法Ⅱ 福祉計画の種類(3)		27	大学提出レポート1単位目作成 その2	
13	4. 福祉計画の主体と方法Ⅱ 福祉計画の種類(4)		28	大学提出レポート1単位目作成 その3	
14	4. 福祉計画の意義と目的 福祉計画における住民参加の意義 4. 福祉計画の主体と方法 福祉計画の策定過程と評価方法		29	大学提出レポート1単位目作成 その4	
15	前期プレテスト		30	大学提出レポート1単位目作成 その5 後期期末試験範囲の確認	
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
前期：新・社会福祉士養成講座 11 福祉行財政と福祉計画[第5版] 後期：プリント対応			<ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 		